

平成 30 年度 うべ女性活躍応援ネットワーク「第 1 回会議」 会議録

日 時 平成 30 年 5 月 23 日(水) 15:00～16:50

場 所 宇部市役所 2 階 第 3 会議室

出 席 委員 17 人 (松井(代理)、淵上、藤井、岩本、佐野、宗田、内海、齋藤、河野、岡井、西村、
今田、山村、平中、柳、藤崎、三戸) ※欠席 2 人 (山本、三間地)
オブザーバー 2 人 (前村、殿元(代理))
事務局 4 人 (平山(理事)、植野(課長)、林(副課長)、三井(主任))

◆開会挨拶(市民環境部長)

◆自己紹介(委員・オブザーバー及び事務局)

◆役員選出(会長の互選)

- ・設置要綱に従い、互選により藤井会長を選出。

◆議 題

- ・会長を議長とし、議事を進行。概要は以下のとおり。(※個別の意見については、議題(5)にまとめて記載した。)

(1)本市における女性活躍の取組について

- ・事務局から、資料に基づき説明。特に質問等はなし。

主な内容

- ・男女共同参画に関する国内外の動きや各種統計データ等を紹介しながら、第 3 次基本計画策定以降の主な取組状況を報告した。

(2)ネットワーク委員による取組紹介について

- ・会長から、(株)エイムにおける企業内保育園の運営状況が報告された。

主な内容

- ・今回、会社の増築に合わせて開設した。社員だけでなく地域にも開放している。手探り状態ではあるが、女性も男性も働きやすい環境づくりの一助としていきたい。金銭的な負担は必要だが、優秀な人材は手放さないとの思いで運営しており、数年後にはこの取組が必ず良い結果をもたらすものと信じている。

(3)テレワーク普及促進の効果的な手法について

- ・事務局から、資料に基づき説明。

主な内容

- ・市では、テレワークの導入支援のため、今年度から「女性職場環境改善助成金」を拡充し、企

業への訪問活動等を通じて活用を呼びかけている。

- ・業種によって導入のしやすさに差異があるため、効果的なPR方法などがあれば情報提供をお願いしたい。

(4)「プレミアム研修」の企画内容について

- ・事務局から、資料に基づき説明。特に質問等はなし。

主な内容

- ・2月の「女性リーダーと語る会」での縁により、21世紀職業財団から「明日のビジネスを担う女性たちの交流会in宇部」の開催(共催)について提案をいただいた。これを今年度のプレミアム研修に位置づけて実施したいと考えている。
- 今後、パネリスト(3人)の選出について委員の皆様にもご協力を仰いでいきたい。

(5)意見交換(女性活躍のために取組むべきこと)

- ・委員及びオブザーバーからそれぞれ、各所属先における課題や取組の状況、市への提言等について発言をいただいた。
- ・市に対する要望として、「働く女性をもっと気軽に意見交換できる場を提供し、かつ、その内容を上層部(経営者や上司など)へ確実に伝達できるような仕組みづくりをお願いしたい。」との声が多く寄せられた。

主な内容

- ・社内での具体的な取組とまではいかないが、女性が働きやすくなるよう常に配慮はしている。
- ・会社のトップが女性社員との意見交換会を実施しており、仕事に対する姿勢に(前向きな)変化が見られるようになってきた。
- ・管理職に昇任したくないと考える女性が多いため、早いうちからキャリア形成を行うためのグループを立上げ、政策提言の場を設けた。
- ・ライフイベント(結婚や出産など)にも柔軟に対応できるよう、フレックスタイムや時短勤務、代休制度などの導入を進めている。(個人的に最も便利だったのは病児保育だった。)
- ・テレワークについては、在宅に限らず社外等でも実施できるよう試行中であり、今後、本格的な導入を予定している。
- ・所属する女性会員の割合が低い。女性が入会しやすい環境づくりを進めていきたい。
- ・共働きの場合、夫の転勤に妻がついていくケースが多く、女性が働きにくい要因の一つになっている。男性も一緒に解決策を考えていくべき。
- ・仕事の悩みを話し合える女性だけの組合組織をつくっている。昔ほど男女差別は見られなくなったが、まだまだ男性と同じように働きたいと考える女性が多い。また、同じ女性同士でも既婚者と未婚者では業務に差が生じやすく、留意が必要。
- ・女性が少ない職場のためか、「この仕事は、女はやるべき」といった保守的な考え方が根強く残っている。
- ・介護で外に出られないが特技を生かしたい、という女性のために、マルシェや屋台ラボ等のイベントを通じて支援活動を行っている。今年度は起業サポート助成金を活用し、実行委員会方式でスモールビジネスの支援を行う予定。
- ・高齢の従業員が多く、介護を理由に退職するケースも増えてきた。今後は特にこの点をフォ

ローしていきたい。

- 今日の会議に出席して、女性活躍にもさまざまな分野や手法があると分かった。企業の経営者層も交え、多様な意見交換ができる会合が持てると良いと思う。
- 未だに女性が家事や育児を担うケースが多いため、(女性が働きやすくするためには、)特に時間的な制約をクリアしていくことが不可欠となっている。(自社では、女性社員の意見を聞き、業務量の少なかった土曜日を休日にした。)意見を出しやすい雰囲気づくりと、会社はその意見を反映していく姿勢が重要。
- 「女性リーダーと語る会」での岩田会長の講演を聞き、在宅勤務の導入を開始した。
- 同じ世代でのネットワークづくりや他社との人材交流を進めていきたい。また男性に対しても、女性活躍の必要性を知ってもらうための教育が必要。
- 従業員のほとんどが男性だが、育休取得が全く進んでいない。企業風土の改革が必要だと感じている。
- 宇部市は全体的に女性活躍の取組が進んでいると感じる。仕事と家庭の両立支援などは他にもいろいろな好事例があると思うので、管理職の意識改革など、社として可能な限り協力していきたい。

(6)その他

- 事務局から、施策への協力(①認証企業に対する支援内容の拡充、②女性リーダー育成支援事業への参加者の推薦)について依頼。

以上